Vol.9
図書館だより
山梨県立大学

ISSN　1884-1112

# YONZYA
よんじゃー

「富士登山　－世界遺産登録の夏に－」　撮影者：石山　宏

## CONTENTS

巻頭言 …… 2
研究と図書館 …… 3～7
図書館通信、編集後記 …… 8

巻頭言

# こんな図書館を目指したい

山梨県立大学図書館長
佐藤　悦子

後期授業がスタートした日の夜9時30分過ぎ、看護図書館をのぞいてみると、約30～40名の学生たちが、静まりかえった図書館で真剣に文献等を広げながらノートやパソコンに向かっておりました。近寄ってのぞいてみますと、明日の実習の準備であったり、授業の課題や事前学習に取り組んでいるということでした。このような学生の姿を見ると、さらに利用しやすい図書館にするためには何が必要か、出来ることは何だろうという気持ちにさせられます。

平成24年8月に中央教育審議会より「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」の答申が出されました。学習支援環境の整備の課題のひとつに、「主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」があげられました。

本学の県立大学図書館・県立大学看護図書館は、はたして学生たちにとって主体的な学修を支援できるような環境となっているのだろうか、と考えてみました。学生自身の大学生活の一部に図書館がある、そんな図書館であってほしいと思います。長年、歴代の図書館長を中心に、司書の皆さんや学生のライブラリースタッフ・事務局等が様々な取り組みと工夫・改善を図り、現在の図書館があります。

今後さらに、積み上げていかなければならない課題として、図書館の開館時間の延長や、複数の学生たちが集まって、様々な情報資源を用いて学習が進められるようなアクティブ・ラーニング・スペースの整備だと考えております。が、この実現には越えなければならない多くのハードルがあります。

大学図書館は、学術情報資源の宝庫であり、一方でここから世界に学術情報を発信していく中核となる機関です。まずは、できるところから取り組んでいけたらとそんな思いを持っています。学生たちが日常的に図書館を訪れ、自らの学習意欲を高めていけるような、魅力ある機能を持った場にしていきたいと考えています。

20時を過ぎた県大看護図書館での学生達

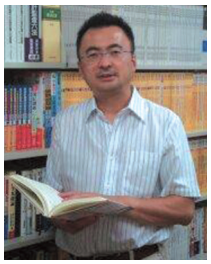
県大図書館で課題に取り組む学生達

## 他大学の図書館も、ありがたく活用しよう！

あるテーマについて研究論文を書こうとするときは、そのテーマに関して、すでにどのような論文（先行研究）が存在しているかを、まず把握しておくことが必須である。現在では、例えば、論文検索サイトである「CiNii Articles」を使えば、「論文のタイトル」や、その論文の「掲載書誌」を把握できる。だが、「論文そのもの」は、インターネット上では入手できない場合が多い。

ゆえに、「論文そのもの」は、掲載書誌を閲覧・複写する必要が生じる。その際、県立大の図書館に所蔵されていないからといって、あきらめてはならない。手続をとれば、全国の大学の図書館から複写物を郵送してもらえるし、近隣の大学の図書館に所蔵されているのであれば、直接出向いてもよい。例えば、山梨大学附属図書館は、「調査・研究のために図書館の資料を利用することを目的とする」者であれば、紹介状なしで利用できる。山梨学院大学総合図書館は、「山梨県内に居住又は勤務する18歳以上」の者であれば、紹介状なしで利用できる（問い合わせたところ、県立大の学生であれば、県外在住者であってもよいとのことである）。学生諸氏においては、このような恵まれた環境を、是非大いに活用してもらいたい。

（国際政策学部　総合政策学科　講師　伊藤 智基）



## 資料収集における図書館利用の一方法

これから論文を探すこととしましょう。現代では論文等を探す段階でウェブサイトを利用するのが最も効率的であることは言を俟ちません。ウェブサイト、その代表的なものとしては国立国会図書館サーチやCiNii（サイニィ）があります。ここで、大抵はお目当ての資料と出会えます。時として資料数が多すぎて、どれをピックアップすべきか困惑することもしばしばです。

論文が見つかったら、いよいよその入手です。入手の方法としては、図書館の蔵書とウェブサイトに大別されるでしょう。図書館の蔵書から入手できれば、かなり運が良いといえます。それだけピンポイントの書籍や専門誌が保有されていることが条件となるからです。それではウェブサイトはどうでしょう。今や紀要などは、多くの大学でオープンアクセス、つまり自由に閲覧できる状態になっています。お目当ての対象がオープンアクセスであれば即入手できます。

オープンアクセスでないときにどうするか。ここで諦めてはいけません。図書館を利用するのです。図書館の蔵書にないからウェブサイトにしたのになぜ…。大学の図書館は基本的にすべて繋がっているのです。つまり、他大学、紀要であれば発刊した大学に依頼することで、取り寄せができるのです。その意味で、図書館というのは単なるハコではなく、ソフトとしての意味も持っているといえるでしょう。大いに活用したいものです。

（国際政策学部　総合政策学科 准教授　石山　宏）

## 研究と図書館

アメリカ史ならびに日米交流史が専門なのでアメリカの図書館で資料調査をすることが多い。なじみの図書館で気心の知れたライブラリアンやアーキビストと過ごす時間は、私にとって至福の時である。ある程度まで専門知識が蓄積されると、その先にはアーキビストとの丁々発止の世界が広がり、その緊張感も好きである。アメリカ留学中に修士論文を書くために、半年間、毎日のように通ったのがフィラデルフィア郊外のハバフォード大学クエーカー・コレクションである。雨の日も風の日も通い続けていたのだが、志が高くても、要領が悪いうえに語学のハンディを抱えているので、いかにも進みが鈍い。ときどき嫌気がさしたが、それでも足を運んだのは、親切な職員さんたちの支えがあったからだ。その後、四半世紀の時を経てようやく再訪できたとき、その職員さんの一人がまだ残っていた。嬉しくて懐かしくて、涙がこぼれそうになった。特定の資料を求めて、初めて訪問し遠慮がちに調査を開始することもある。それでも、こちらの資料に対する情熱は伝染し、たいがい親切に遇してもらえる。手に取るとパラパラと崩れていくような資料を読んでいたら、テーブルの上、そして床までが古紙のフレークだらけになってしまった。謝ると、“That is part of my job.” と言って快く掃除してくださり、恐縮だった。資料あっての歴史家にとって、図書館はかけがえのない存在であり、その職員さんたちに対しては感謝の言葉しかない。

（国際政策学部　国際コミュニケーション学科
准教授　戸田 徹子）

## 知的ジャングルの冒険

学生時代、貿易論の教授が課題レポートを出す際、こんな注意をした。「本から無断引用してはいけない。中には“以上のように”と書き出して平然としている者もいる」。昔も本から丸ごと盗用する学生がいたわけだが、それでも図書館で本を探し出し、書き写す手間はかかった。ネット時代の今は検索語一つで出来合いの答えを見つけ、いとも簡単に張り付けることができる。問題と解答の間に「自分で考える」というプロセスがなくなった。しかし、それでは物事の本質に迫る知的好奇心や思考回路は育たない。

時間と空間の壁を超え、自由に情報をやり取りできるネット時代が幕を開けたのは1990年代半ば。空前の情報技術革命により、世界は手間のかかるアナログ文化から効率一辺倒のデジタル文化へ一変した。何ごとも光には影が伴う。ネット依存の手軽さは短絡思考を生む。教育現場にいると、便利になるというのは恐ろしいことだと痛感する。

図書館は人類の知的遺産が集積する壮大なジャングルである。鬱蒼とした大木の間をさまよい歩くうちに、目が慣れ、足が慣れ、勘が生まれる。苦労に苦労を重ねて真実にたどり着いたときの感動と興奮――。ゼロから出発し、時間と労力をかけながら答えを探し出す過程を経て初めて、人は成長し、賢くなる。「書を捨てよ、町へ出よう」（寺山修司）から「ケイタイを捨てよ、図書館へ行こう」へ。図書館とは優れて知的自己格闘の場である。

（国際政策学部国際コミュニケーション学科特任教授　山本 武信）

写真：山本武信著『<世界>を書く技術と思想～21世紀のメディア表現』（ミネルヴァ書房、2006年刊）

# 研究と図書館　人間福祉学部

## 苦い思い出

今回、「研究と図書」というテーマでエッセイを書くよう依頼を受けた。担当者から「めぼしい教員には全員断られた」と泣きつかれた。「学科長」という、管理職最下層の立場では断るわけにはいかなかった。

研究と図書にまつわっては、苦い思い出がある。30年近く前のこと、私は、サンフランシスコ州立大学の修士課程に在籍しており、修士論文の提出期限に迫られていた。論文のテーマは、今日の私のライフワークとなっている子ども虐待と境界性人格障害との関連についてであった。当時、わが国の大学図書館には殆どなかった虐待関連の専門書籍が、州立大の図書館には極めて豊富に所蔵されており、雀躍の如く嬉々とした私は、車の後部座席に図書館から借り出した専門書籍数十冊を積み込み帰路についた。この日は仕事の関係で立ち寄らねばならぬ先があり、車を路上に停め、用を済ませた。車を離れていた時間は30分程度であったと記憶している。さすが、アメリカである。その間に車のハッチバックのリア・ウィンドウが破られ、書籍はすっかり持ち去られていた。中にはアメリカですらなかなか手に入らぬ専門書も含まれており、弁済を考える私の頭から、血の気がすっかり失せたことを今でも鮮明に記憶している。

感謝すべきは、私が貧乏留学生と知っていた図書館司書が請求した金額が、書籍の価値に応じたものではなく定価であったこと（したがって$700程度で済んだ）と、修論に迫られている私を案じて、盗まれた書籍と同じものを全米の図書館から掻き集めてくれたことであった。あの専門書籍と図書館司書がいなければ、私の研究者としての人生は始まらなかったのである。

（人間福祉学部　福祉コミュニティ学科　教授　西澤　哲）

## こどもの不思議を読み解く試みと図書館

私は、こどもの発達を心理学という分野から検討しています。こどもは成長に伴って、おとなから見ると非常に不思議な姿をいくつも見せてくれます。例えば、お母さんが洟をかんだだけで大笑いしたり、四つん這いのお父さんを「ワンワン」といって指差したり、積み木を掲げて「ブーン」と走り回ったり…ときには、誰も座っていない座布団に向かって熱心に語りかけたりなんてこともあります。

こういったこどもの様子に、しばしば、おとなは「か～わいい！」とほのぼのしますが、私はそこにとどまらず、それらの現象を引き起こす仕組みを、根拠をふまえて明らかにしたいと考えています。そのためには、まず、普段のこどもが見せる何気ない言動に「なぜ、どうして」と真面目に問いかけ、どうすればその問いに答えが出るかを考える必要があります。そんなとき頼りになるのが図書館です。

図書館には、先述したようなこども特有の行動・思考・発言に魅力を感じ、ユニークな方法で長年探究を続けてきた人たちの成果が収められています。書架の文献には、「なぜ、どうして」の答えに繋がる方法のヒントや、新たな「なぜ、どうして」がいっぱい。それらを読むことで、私たちは一つの現象の説明のために払われた沢山の努力を知ることもできます。

こどもをもっと理解したい、そのための方法を知りたいという人は、ぜひ図書館に足を運んでください。そして、こどもの不思議の解明を目指し、一緒に悪戦苦闘しましょう。

（人間福祉学部　人間形成学科　講師　多田 幸子）

## 過去・現在・未来を紡ぐ存在

図書館って、「出会う楽しさ」が散りばめられている素敵な場所だと思う。

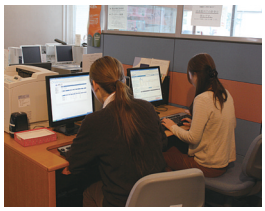
ある物事についてより深く知りたくなったとき、せっかちな私は図書館へと足を運ぶ。たくさんの本、新聞、雑誌、視聴覚資料、欠かすことができない静かな空間とゆったりと流れる時間…そこで働いている人たち。一歩踏み入れたとたん、たくさんの出会いが私を待ってくれているようでワクワクした気分になることができる。

先日、私の研究テーマに関して、どうしても手に取って確認したい文献があった。頼りにしたのは机上にある便利なツールや研究室内の資料ではなく、もっとも身近な飯田キャンパスの図書館。カウンターで仕事をしていたその人は手を止め、小声で話をする私に真剣に向き合ってくれた。しかし、その日どうしてもお目当てのそれに出会うことはできなかった。そう、図書館には「ある」と「ない」が混在してもいる。

あわただしく流れる毎日。目の前のことに精一杯の私は、その時の残念な気持ちすら忘れかけていた。1週間後、図書館から電話が入った。結果は同じ。でもその人は、しっかりと私を気にかけていてくれたのだ。私のこころに、たくさんの元気とチカラがチャージされた瞬間だった。

図書館から学び、出会う要素は、単に十何万もの蔵書だけではない。私たちの研究の背景には、過去・現在・未来を紡いでくれる図書館やそこで働く人たちの存在があることを、あらためて実感させられた出来事であった。

（人間福祉学部　福祉コミュニティ学科　准教授　山中 達也）



## 研究における文献検索の楽しみ

文献検索におけるキーワードの選択は、案外難しいものである。医学中央雑誌に収録されている論文は、2013年9月30日現在、1983年から2013年9月16日までに発表されている論文である。私の研究テーマである、「糖尿病」をキーワードに検索すると、241,303件がヒットする。ここからキーワードを選択し、絞りこまないと私が探したい論文にはたどり着かない。絞り込みキーワードによって、自分が得たい文献にたどり着くことができるかどうかが決まる。手当たり次第にキーワードを入力しても時間の無駄になるわけで、より研究テーマに近いキーワードをもとに検索する。

さて、キーワードを決定し、ようやく、最新の研究報告を得られるようになると、時間が経つのは短い。この段階でも効率よく、また、見落とさないようにピックアップしなくてはならない。忘れがちなことは、いつ、どのキーワードで検索した結果、どのような文献が何件あったかを保存することである。ヒットした文献が、フリーで入手可能な文献はすぐダウンロードできるが、できない文献は、面倒がらずに、すぐ文献複写サービスを利用し入手する。

しかし、こうした努力のもとに手元に届いた文献がすべて、期待通りであるとは限らない。1件でも期待した文献があれば嬉しい。また、その文献で使われている文献が大いに活用できることもある。文献に出会える楽しみを期待し、忙しい中でも文献検索の時間を捻出して丁寧に行っていきたい。

（看護学部　基礎看護学領域　西村 明子）

## “行き詰まったら図書館”のすすめ

「テーマが絞れない」「こんな考え方で研究になるのか不安」･･･臨床の看護師さんから看護研究について、こんな相談をされることがよくありますが、私はまず、本学の図書館を利用して、関連する文献をしっかり検索することをお奨めしています。データベース検索も充実しており、検索した文献は豊富な蔵書の中からその場で入手できることが多いからです。また、仕事が終わってからや土曜日にも利用できる本学の図書館は、実践現場で命と向き合いながら毎日忙しく仕事をしている臨床の看護師さんにとって、非常に利用しやすい環境にあると思います。

ネット社会の現在、webが検索できれば、ほとんどの情報は容易に入手できます。しかし、適切なキーワードが絞り込めるか否かによって、検索結果が大きく変わってくることは、皆様ご承知のとおりです。私は、絞り込みに行き詰まると図書館に行って、関連する学術雑誌をペラペラと捲ってみます。検索している時には気づかなかったキーワードや、興味のある文献を発見できることがあるからです。実際に雑誌を手に取り、研究論文に触れてみたことで、自分が研究として取り組もうとしているテーマのイメージや方向性が鮮明になってくることもよくあります。

「大学の図書館は敷居が高い」と敬遠していた看護研究初心者マークだった看護師さんが、今ではリピーターとして時々図書館を利用していると話してくれました。うれしい限りです!!

（看護学部　老年看護学領域　渡邊 裕子）

## 学びとやすらぎの場

普段、私は、Sedentary Behaviorの多い生活を送っています。「Sedentary Behavior」とは、「座位および臥位におけるエネルギー消費量が1.5メッツ以下のすべての覚醒行動」のことをいい、日本語では「座位行動」と訳されています。メッツとは身体活動の強度を示す単位で、その活動が安静時の何倍に相当するかを表します。睡眠が1.0メッツで、座ってパソコンで作業をしている状態が1.5メッツです。つまり、私は非常に座りがちな生活を送っている（出勤してから帰宅するまで研究室に閉じこもりパソコンに向かっている）ということです。ある研究では、一日の総座位時間が4時間未満の人に比べて、8時間以上の人で15%、11時間以上の人では40%、総死亡リスクが高まることが示されています。

前置きが長くなりましたが、そんなSedentaryな生活を送る私にとって、図書館で過ごす時間は、新たな研究資料を入手する時間だけでなく、座位状態を断ち切り、私の死亡リスクを減少してくれる時間でもあります。心に余裕がない状態では、思考の整理がうまくできず、作業の効率も下がります。図書館が作り出す雰囲気は私の脳をその状態から解放してくれます。また、図書館で学生が真剣に学習する姿は、脳と心をさらに新鮮なものにしてくれます。図書館は、私にとって学びの場であると共にやすらぎの場でもあります。

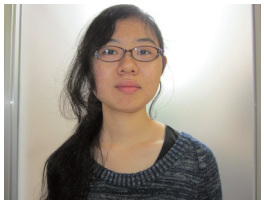
（看護学部　看護関連科学領域　山北 満哉）

# 研究と図書館　学生編

## 研究と図書館

レポートのネタ、どこで集めよう…。私が大学一年生だったときゼミの講義でレポートを書く練習をしたことがある。入ったゼミの教授は環境系の人だったため環境問題についてそれぞれ簡単なレポートを書くことになった。私が選んだテーマは「原発の安全性について」。原発問題なんてなんか大学生っぽくてかっこいいというのが決めた理由だ。私はとりあえず図書館から1～2冊選んで本の資料を引用しながら原発がどれだけ安全なのかをレポートに書いた。それを提出したのだが教授からはいくら本の資料を引用してもそれが信頼できる情報とは限らないと言われてしまった。ある問題について書かれた本にはその問題の利害関係者が関わっている場合が多いからだという。確かに自分が参考にした本の著者は電力会社の関係者だった。その時は教授の言葉もへー、なるほど参考になったぐらいにしか意識していなかった。だが結局次の年に起こった原発事故でそれを痛感することになる。このように、本にも信頼性の問題が付きまとう。しかし、図書館には分類ごとに様々な意見を持った本が収納されている。インターネットのキーワード検索よりも偏った情報収集にならずに多角的な資料集めができるだろう。こういった理由でやはり図書館は研究に有用なものだと思う。

（国際政策学部　総合政策学科　4年　久保 幸正）



## 図書館とレポート

もしも図書館がなかったら、と考えてみる。私はどうやってレポートを書けばいいのだろうか。今まで提出したレポートを思い返すと、大部分が図書館で借りた資料を参照しながら書いている。

調べものには、インターネットを使えば早いじゃないか。そんな風に言われることもある。一つ二つ単語を打ちこむだけであふれるほどの情報を並べてくれるインターネットは、確かに便利だ。うまく使えば短時間で質の高いレポートを作れるのかもしれない。しかし、多すぎる情報というのも、時には厄介なものだ。目の前の情報はどこから来たのか？　正しい情報なのか、どうか？　考え始めるときりがなくて、しまいにはうんざりしてしまう。

レポートを書くとき、検索エンジンにキーワードを打ち込む代わりに図書館に行く。請求記号順に整然と並んだ本の列を見渡しながら、書きたいテーマにぴったりな本を探す。気になる本を手に取ってめくりながら、どの本がいいか考える。本には安心感がある。めくればいつも同じページに同じことが書かれている安心感であり、誰が書いたのかはっきりしている安心感だ。

正しい本を選んだと思えたとき、レポート作成は七割がた終わっている。本という確かな実体を持った情報が手の中にあれば、あとは、書きたいことを文章にまとめていくだけだ。

（国際政策学部　国際コミュニケーション学科　2年　阪本　茜）

## 研究と図書館

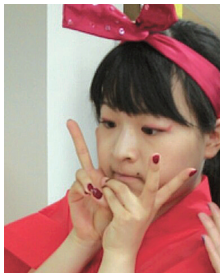
私が図書館を利用するようになったのは、3年生になって、卒業研究に取り組み始めてからでした。それまでは、レポートを書くために読む本を借りるために、年に数回行くかどうかという感じでした。ゼミの時間に図書館で卒業研究のテーマ探しや文献探しを始めたのがきっかけで、よく利用するようになりました。

卒業研究では自分の研究テーマのもと、調査や考察も行いますが、基本的な知識を身につけたり、先行研究として自分のテーマについて現在までにどのようなことが分かっているのかを調べたり、調査を実施する前の準備として関連する文献を探します。県大の図書館には福祉に関する雑誌や書籍も多く、また、他大学にある文献でも図書館を通して取り寄せてもらうことができるのでとても助かりました。

また、図書館には集中して取り組むことができる環境が整っています。静かな場所で集中したいときには図書館に行くことにしています。ノートパソコンの貸出も、自分のペースで作業したいときにとても便利なので頻繁に利用しています。

大学図書館は一番身近な図書館として、卒業研究を進めていくなかで重要な役割を果たしていると思います。これからも利用したいと思います。

（人間福祉学部　福祉コミュニティ学科4年　片桐 珠美）

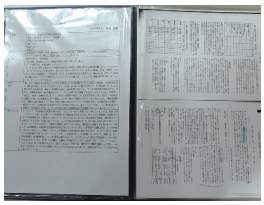


## 研究と図書館

幼い頃から、図書館に通って様々な本を読むことが私の一つの楽しみでした。大学生になり、以前より図書館に通う機会は減りましたが、落ち着いて勉強したい時や、何か知りたいことがある時などには、今でも図書館を利用します。

4年生になり、卒業研究のために調べ物をすることが増えました。インターネットが普及し、調べたい情報を、自宅でも簡単に調べられるようになりました。しかし私は、図書館でゆっくり本を探し、静かな空間で本を読むほうが、自分の中に新たな知識を増やしている、という実感が湧くように感じます。図書館で調べ物をすると、本のタイトルから内容を予測し、本当に自分の調べたいものが見つかるまで、少しの手間がかかります。求めていたものと違う内容に出くわすことも多いです。しかし、そこに新たな研究のヒントが隠れていたり、興味を引く内容が潜んでいることが良くあります。この出会いは図書館ならではだと思います。私自身の知識や教養を深めるためにも、私自身の研究のためにも、図書館はなくてはならない場所だと感じています。

（人間福祉学部　人間形成学科　4年　松井 悠香）



文献をまとめたファイル

## 研究と図書館　図書館の利用法

私は、卒業研究のテーマを「広汎性発達障害児をもつ父親と母親の障害に関する思い」とし、研究を行っています。研究を進めて行くうえで行った文献検討で用いた文献は、すべて図書館で入手することができました。図書館で、CiNiiなどの文献データベース･サービスで文献を検索し興味のある論文を読むことや、入手することができます。また、図書館に蔵書がない場合やweb上で読むことができない文献は、他大学や国立国会図書館から取り寄せることができます。そのため、自分が興味を持った文献や研究に利用したい文献を見つけ、手に入れることができます。私は、先行研究について調べるときによく図書館を利用していました。色々なところに行かなくても、図書館に行き、検索をすれば簡単に、自分が読みたい文献を見つけることができるため、研究を行う際には図書館を利用することをお勧めしたいと思います。また、私は、集めた文献は、内容をカードにまとめ、ファイルにとじてあります。そうすることで、内容も見直しやすく、活用しやすいと思います。

（看護学部　4年　渡邊 真維）

## 文献検索で大切なこと

私は「術後疼痛」に関する修士論文に取り組むにあたり、自分が明らかにしたいことが、世の中では一体どうなっているのか、痛み体験をどのように分析すればよいのかを考えるため、文献検索に多くの時間を費やしました。例えば、「痛み」、「痛みの我慢」、「不安・恐れ」、「ストレス」、「回復への意欲低下」の連鎖など、痛み体験による患者さんの心理・社会的影響を裏付けるだけの根拠が自分には不足し、他者に十分説明できないと思いました。急性疼痛の分野で、痛みとストレスの兼ね合いを述べている文献は少なかった為、他分野で述べているものを範疇に入れ文献を探しました。その中で、術後疼痛を体験している患者さんの不安や恐怖、思考錯誤しながら自己対処行動を図っている状況が、がん看護分野での痛み体験と類似していることに気付き、患者さんの痛みの意味を図り知ることができ、痛みの意味を裏付けていく上で重要な手掛かりを得ることができました。対処に関連し、コーピングという観点で検索した結果、対処行動の多くが「耐痛閾」によって決定づけられ、「痛みの概念を変える」ことが患者支援でもあることなど、分析や考察を助けてくれるものでした。この様に、私の場合、課題に固着し過ぎず、課題への文献とその中での気付きからの文献を合わせて検索し事柄を明らかにしていったことが、研究を成功に導いた要因の一つであったと考えます。

（山梨県立大学大学院　急性期看護学分野　渡邊 泰子）

# 図書館通信 library report

ここでは、各図書館でみなさんにお知らせしたい図書館のコーナーや資料のほか、図書館で起きたできごとなどを紹介します。

## 県立大学図書館

**雑誌コーナーをご利用ください**

県立大学図書館では2013年4月現在、276タイトルの雑誌を購入しています。そのうち50タイトルは洋雑誌です。雑誌の種類は両学部の内容に沿った学術雑誌が大半で、最新の研究・情報を知るには雑誌が向いています。学術雑誌以外にも就職・留学情報の雑誌や、少数ですが娯楽系の雑誌も所蔵しています。

一階奥には過去五年間分のバックナンバー、それより前のものは書庫に保管しています。最新号以外は貸出・複写可能ですので、一度雑誌コーナーをゆっくりと眺めてみてください。

**目安箱はじめました**

目安箱

県立大学図書館のライブラリースタッフ（※）の企画立案で、利用者の声を聞きたいと目安箱を学生用入口に置いています。日頃利用していて図書館に対して抱いている要望・意見を「ひとことカード」に書いて目安箱に投書してください。ライブラリースタッフが回答して目安箱横のボードに貼りだします。来年3月末まで設置予定です。よりよい図書館になるため、皆さんの意見をお寄せ下さい。

※ライブラリースタッフ……学生の視点を取り入れた両大学図書館の活性化を目的として発足した学生組織です。

## 県立大学看護図書館

**図書のリクエストを受付けています**

図書館では、図書のリクエストを受付けています。

授業や実習、自己学習などで参考にしたい、利用したい図書がありましたら、是非リクエストしてください。

また、既に図書館にある図書への複本の希望でも、その旨を伝えて頂ければ、受付け致します。

申込みの際は、カウンターにある「資料購入希望票」に必要事項を記入の上、職員へお渡しください。

看護図書館の資料購入方針と照らし、検討した上で購入致します。

カウンター

**雑誌の利用率調査を実施しました**

9月12日～12月11日まで、雑誌の利用率調査を実施し、利用状況の把握を行いました。調査の結果は、今後図書館で購入する雑誌の見直しをする際に、参考とする予定です。

雑誌は貸出を行っていませんので、実際の利用状況を把握することが難しかったのですが、今回の調査を行い、どの雑誌が多く利用されているのかを把握する良い機会となりました。

ご協力頂きありがとうございました。

### 編集後記

「研究と図書館」をテーマとし、教員10名、学生6名から寄稿いただき、図書館にまつわる思い出話や有効な活用方法を様々な立場からご紹介いただきました。深く御礼申し上げます。

ウェブサイトで何でも調べられるようになった今日、図書館など過去の研究ツールと考える向きもありますが、図書館に足を運んでこそ得られるものもたくさんあります。ウェブサイトで見た富士山頂の景色と、自分の足で富士山に登って眺めた景色が別物であるように。

YONZYA（よんじゃー）Vol.9　2013年12月1日発行
発　行
山梨県立大学図書館
甲府市飯田5-11-1　TEL：055-224-5340
E-mail：lib@yamanashi-ken.ac.jp
山梨県立大学看護図書館
甲府市池田1-6-1　TEL：055-253-9429
E-mail：toshokan@yamanashi-ken.ac.jp